

シンポジウム

ゲノム編集技術の動向（食品・作物）

2012年 CRISPR-Cas9 という技術が発表になり、狙い通りに生物の遺伝子を壊したり、置き換えることを可能とするゲノム編集技術が開発されています。現在は、新しい技術として普及してきていますが、はたしてこの技術がどこに使われ、どの程度開発されているのか、開発されるのか蜘蛛を掴む思いです。

農作物や家畜などの品種改良として 腐りにくいトマト、養殖しやすいおとなしいマグロ、筋肉量が2倍の豚、角を作らない乳牛、伝染病に強い豚、バイオ燃料の生産に適した植物の開発（油を蓄える藻の油量を増やす）、病気のモデルとなる実験用動物の作成などが開発されています。

私たちの食生活に今後どのような危険性が危惧されるのか、そもそもこの技術は古細菌などに見られる外部侵入ウイルスの応用です。地球が誕生して36億年、それよりも以前の自然循環を私たちの体に適応できるのでしょうか疑問です。ゲノム編集技術の動向を知ることで、私たちが今後どのように注意したら良いのかを講師にお話しいただき、その上で、私たち市民はこの技術の規制枠をどのように国に求めて行けば良いかを考えてみたいと思います。

今後新しい農業政策として、ゲノム編集技術が起用されて行くと予想されます。農産地と消費者がどのように向き合っていくかも今後の課題です。皆さんで考えてみましょう。

記

講師 天笠啓祐さん 市民バイオテクノロジー情報室代表。

日時 2017年10月26日（木）10月26(木) 13時30分～16時30分
開場 13時より

場所 渋谷区 文化総合センター大和田 学習室 1
渋谷区文化総合センター大和田〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 23-21



資料代 1000円

主催 ゲノム問題検討会議

問い合わせ 神野玲子 TEL 090-2669-0413

E-mail jreikochan@yahoo.co.jp